

日吉図書館開館40年

日吉図書館開館40年を迎えて

せ と じ ま ひ ろ み
瀬戸島弘美
(日吉メディアセンター)

2025年、日吉図書館（以下「当館」とする）は開館40年の節目を迎えた。1985年に慶應義塾創立125年記念事業の一環として建設され、2005年には開館20年を記念した行事を実施した。それからさらに20年経過した本年は、記念グッズの作成や館内展示など、ささやかながらいくつかの企画を行っている。ここにそれらの記録をとどめておく。

1 記念ロゴと記念グッズの作成

当館では、従来のロゴと同じく四阿^{あずまや}をモチーフに開館40年記念ロゴを製作し、2025年度限定で使用している。

記念ロゴを用いたポスターもあわせて作成し、館内に掲示するとともに、1階常設のデジタルサイネージでも表示している（図1）。

また、ロゴ入りの記念グッズも製作した（図2）。不織布バッグは黒・紺・茶・緑の4色各300枚を用意し、図書館ツアー参加者や学外からの来訪者に配布している。葉は2,000枚作製し、利用者が自由に持ち帰れるようメインカウンターに置いている。



図1 デジタルサイネージ



図2 不織布バッグ（左）と葉（右）

2 日吉ギャラリーでの展示

当館中央に位置する十字路廊下は、1階から3階までが日吉ギャラリーと呼ばれ、メトロポリタン美術館所蔵の代表的な作品のポスターを常時壁面に飾っている。この1階部分を2025年3月26日から1年間は衣替えし、当館設計者である横文彦氏による建築当時の直筆スケッチや、開館当時の建築写真を展示し、来館者にも40年前の雰囲気を感じてもらっている（図3）。



図3 1階日吉ギャラリーでの展示

3 日吉図書館設計者・若月幸敏氏の来訪

5月14日、当館の設計に横文彦氏とともに携わった若月幸敏氏が来訪された。若月氏が当館を訪れるのは実に20年ぶりであり、館内をご覧になりながら「建物は開館当初の姿をよく保っている」とのお言葉をいただいた。この日、1階ラウンジでは毎年恒例の「ライブラリーコンサート」（図4）が開催されていた。ここは開館当初、新聞キャレルコーナーだったが、当時から使用されている吊り下げ照明は、コンサートの演奏者を照らすスポットライトの役割を果たしていた。



図4 ライブラリーコンサート
(2023年春・弦楽四重奏)

日吉ギャラリーでの開館40年記念展示もご覧いただき、建設当時の貴重なエピソードを多数伺うことができた。たとえば、三田キャンパスの図書館新館と比較して限られた予算の中で建設が進められた当館は、若月氏自らが施工業者に色の指定を行うなど、様々な工夫を凝らしたという。また、レファレンスルームの奥行きを広く見せるために色彩のコントラスト（図5）や、閲覧機の脚の色使い（図6）に加え、館内の照明器具（図7）に至るまで、「色」と「光」への細やかな配慮がなされるなど、気づかなかった仕掛けがあちこちに隠されていた。



図5 レファレンスルーム
柱の色に濃淡をつけ空間を広く見せている

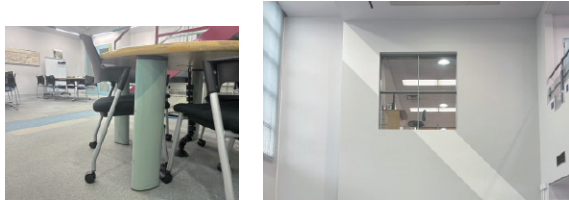


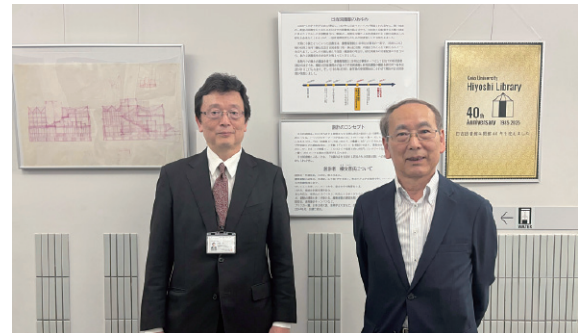
図6 閲覧機（左）グループ学習室（右）
「叡智の光」をイメージした斜めの塗装



図7 入館ゲート横の照明
若月氏がデザインした照明器具

開館20年の記念誌に寄稿された文章の中で、若月氏は「情報を求め図書館を巡り歩く人々は、見知らぬ世界への旅人である」と記している。それからさらに20年を経て、若月氏のお話を改めて伺い、これからも若き旅人たちが歩みを進めていけるよう、常

に時代の先を見据えたサービスを提供し続けることが当館の使命であると感じた。



繁森日吉キャンパス事務長と若月幸敏氏

参考文献

- 1) 杉山良子. 日吉図書館開館20年記念行事を終えて. MediaNet. 2006, no. 13, p. 40.
- 2) 若月幸敏. 巡る旅の回想. 慶應義塾日吉図書館開館20年記念誌. 2006, p. 11.
- 3) 石黒敦子. 図書館の風景とアート—美術品・日吉ギャラリー—. 2006, p. 16-17.